2024 年 12 月 25 日

各位

株式会社クシムソフト
取締役副社長　安原弘二

クシムの事象について

私、安原弘二は株式会社クシムソフト創業メンバーであり、取締役副社長を務めております。今回のクシムの事象について、私の意見を述べます。

記

■はじめに
・クシムソフトは創業 20 年目の会社であり、今まで多くのお客様や社員に支えていただきここまで事業を継続することが出来ている
・20 年目の節目にクシムで起こっている今回の騒動は、ただただ残念でならない

■結論
・クシムソフトは田原氏のクシムに対する株主提案に対して断固反対を表明する

■クシムグループ入りしてからの取り組み
・2019 年 10 月にクシムグループ入りし、取締役にクシム経営陣である中川博貴、伊藤大介が就任した
・クシムソフトの創業メンバーである取締役副社長安原弘二をはじめ、社員、お客様はそのまま、5 年間 SES ビジネスを推進し、2024 年 10 月で 6 年目に突入した
・この 5 年間、SES 業界の規制強化、コロナ禍、様々な困難を現経営陣と社員一同で乗り越えてきた
・直近 1 年においては、SES のみならず、受託開発やデータ連携事業(ASTERIA Warp)も拡大しつつある
・さらにチューリンガム、Zaif とのビジネスシナジーも具体化してきて、案件化に繋がり売上利益が拡大してきた
・それは中川と伊藤を中心に、クシムソフト安原、チューリンガム田中、Zaif 大島の 3 名、そして各社の社員の力で事業具体化をトライ＆エラーを続けた成果である
・なお、田原氏は技術者として優秀であることは認めるし、社内で生成 AI に関する研修をして頂くなど技術的な交流は多少あったが、ビジネスシナジーの具体化は議論したことはほぼない
・これら事業拡大は、現経営陣と社員がお客様から信頼を獲得し続けた証であり、全社一丸となってコーポレートテーマである「顧客満足ではない、顧客感動への追求」を柱に、丁寧に顧客深耕を続けたからこその結果である

■今回の騒動に対しての所感
・そんな中での今回の騒動は、クシムソフトの社員とお客様が不安になる騒動であり、20 年目の節目

の、計画新たに期首をスタートし全社一丸となっているこのタイミングも鑑みると、ただただ残念でならない
・田原氏のクシムに対する株主提案には、クシムソフトの今後については一切触れられておらず、人事に関する提案とその理由のみであった
・これは田原氏がクシムソフトのビジネスには興味がないからと考える
・さらに田原氏はクシムの取締役でありながら、従前からクシムソフト安原へ SES ビジネスについての質問やビジネス拡大に言及することは皆無だったことも、クシムソフトのビジネスには興味が無いのだろうと考える理由である
・クシムソフトのビジネスに興味がない田原氏がクシムの経営権を掌握したことを想像した際に、クシムソフト社員とお客様の不安の正体は、クシムソフトが今まで同様のビジネスができなくなるのではないかという不安であると考える
・この内容を見て田原氏から「自分はこう考えていた」という発表があるかもしれないが、クシムに対する株主提案の時点で言及していない中で、「言われてから発表」する程度であれば、経営の舵取りを任せるわけにはいかないと考える
・そもそもクシムソフトの社員とお客様が不安になる提案をクシムに対して実施している時点で、経営の舵取りは任せられない
・これらのことから、田原氏からのクシムへの株主提案においては、断固反対の立場を取ることにした
・田原氏はクシムに対する株主提案を取り下げて、今回の騒動を自ら収めるべきだと考える

・また、田原氏がクシムへの株主提案に至った経緯を想像するに、クシムソフトの取締役でもある中川、伊藤、両名には、今回の騒動とそこに至った経緯を真摯に受け止め、今後このようなことが無いようにして欲しいと考える
・そのうえで、SES・受託開発・データ連携のそれぞれのビジネスを熟知している両名には、グループ入りして 6 年目のクシムソフトを、取締役副社長の安原や社員と共に、引き続き事業拡大に努めていただきたい

・また田原氏が主張する「シークエッジグループの利益優先」についてはクシムソフトは何も知らないのでコメントしようがない
・なおシークエッジグループという企業そのものは、クシムソフトも知っている企業であり、企業間交流として社員イベント等に招待され参加したこともあるが取引関係はない
・取引関係が無い企業でイベント等に互いに参加する企業は他にも数社あるため、単純に「仲が良い企業」の一社である

■今後のクシムグループに対する期待
・これまで記載してきたグループシナジーを最大限に発揮し、クシムソフト、チューリンガム、Zaif の各社が全社共に売上利益の最大化に集中出来るよう、今回のような騒動が二度と発生しないことを期待したい
・グループシナジーの具体化として、引き続きクシムソフトは SES を中心としたビジネスを実行するが、チューリンガムや Zaif の Web3 分野においてもクシムソフトはチャレンジし、新たな技術習得と新たな業界においての顧客獲得を実現したい

以上